

はじめに

## 第1章 Any-ness という概念

some ~ any

「何か」や「もの」や “what”

something/anything から layer ↓

「任意性」という訳の不十分さ

## 第2章 Any-ness と潜在性

Any-ness の「転移

Any-ness の「裏面性」——Any-ness の潜在性①と②

Any-ness に潜在する二つのエレメント——Any-ness の潜在性③

任意性と実現・生起——剥き出しの任意性

三つの記述の仕方（まとめ）

## 第3章 Any-ness と時間

状態変化と時間経過（1）

時間経過の存在と認識

状態変化と時間経過（2）

存在論的な観点と認識論的な観点

時間推移における Any-ness

時間変化と時間推移、その任意性の違い

時間変化と時間推移の「中間」

## 第4章 Any-ness と時制・アスペクト

時制と時制

時制とアスペクト

アスペクトの潰れに至る思考のプロセス

アスペクトの潰れと白色光

アスペクトの潰れから Any-ness ↓

Any-ness の「田環」（循環）

Any-ness におけるアスペクトの潰れ

「今」の特別さ——アスペクトと時間推移の観点から

「今」と「現在」の違い

## 第5章 Any-ness と論理

時間と「全体・部分」

「今」という全体の時間変化

最小の全体

同一律 (P=P) に  $\text{P} \subset \text{P}$

内在的再帰性

不定の全体—アスペクトの転換としての「今」

時間推移とアスペクトの転換

第4の見解 (第1・第2・第3とは異なる時間観)

Any-ness (任意性) の論理的利用 (1) — 同一律 (P=P)

Any-ness (任意性) の論理的利用 (2) — 任意と全体

Any-ness (任意性) の論理的利用 (3) — 述語論理

Any-ness (任意性) の論理的利用 (4) — 集合

## 第6章 Any-ness と様相

「区分」に  $\text{P} \subset \text{P}$

可能性という様相のベース

Any-ness (任意性) の根源性

様相のネットワークの内と外  
不可能性の「不」の意味  
否定の二つの働き  
偶然と必然

## 第7章 Any-ness と人称

人称というシステム

人称システムの「動性」の極端化 (1)

人称システムの「動性」と Any-ness (任意性)

人称システムの「動性」の極端化 (2)

極端化 (2) によって人称システムはどうなるか？

人称システムの「動性」の極端化 (3)

## 第8章 Any-ness と現実性

Any-ness と現実性との多重の平行性

現実性への「開口部」としての任意の実現・生起

特異性とは何か？

一人称と特異性

「このこれ」から「この私」への転落  
現実と任意と実在と潜在 (1)  
現実と任意と実在と潜在 (2)  
現実と任意と実在と潜在 (3)  
現実と任意と潜在と顕在

## おわりに

二つの伝統 (超越概念、本質と存在)  
Any-ness (任意性) における「動性」  
「動性」の喪失  
Any-ness (任意性) はペンタレムマか？  
不定実在論

あとがき

人名索引

「図表とまとめ」索引

何びもらん何かって何？——Any-ness の哲学